

献 辞

本年3月、長年にわたって本学の発展に寄与された藤田教授が御退職されました。そのご活躍は、今も我々の中に鮮明な印象となって残っております。

藤田先生は、1964年に本学の前身である広島商科大学に赴任され、以来37年間にわたり文字通り本学を支える柱として数々の貢献をされました。1972年から1978年まで就職部長、1989年から1992年まで人文学部長、さらに1992年から1996年まで学長等の要職を歴任され、鋭い洞察力と見識をもって見事にそれらの重責を全うされました。その足跡は、創設期以来の本学の歴史そのものであり、先生の残された功績は、言葉に尽くせぬものがあります。

大学役職の多忙さの中にあっても、先生は、詩人キーツの専門家として綿密かつ独創的な研究を継続してこられ、その成果は多くの学術論文と見事な最終講義に現われております。学界においては、ロマン主義学会の重鎮として同学会中国四国支部の会長を長年勤めてこられました。学問の研鑽をおろそかにされない先生のバランスのとれた姿勢には、感嘆に値するものがあります。

藤田先生は、本学と学生を愛され、激務の中にあってもなお泰然自若として充実した生活を送ってこられました。その生き方は、ひとつの範として長く我々の記憶に残ることでしょう。大学が時代の激変の中で様々な問題に直面している現在、先生を失うことは残念でなりません。

先生のますますの御健勝をお祈りし、今後とも人文学部の発展を見守っていただくようお願いする次第です。

人文学部長 神 谷 正太郎